

なことである。そこで、計画に適合させうるように、戶外レクリエーションを再編成しなければならない。

(2). グルーピング上の基準. フィジカルプランのためのレクリエーション分類として、次の二つの観点から分類し、二つを対応させた。

①. レクリエーション活動の内容：見る、遊ぶ、休む（運動）の三つを、基本活動とすると、その組合せは、全部で7通りある。

②. レクリエーションのおこなわれる場所（資源）⁶⁾：オープンスペース、都市地域、人工開発地域、自然開発地域、自然保護地域の5通りである。

(3). レクリエーショングループ. レクリエーションを上の基準によって分類し、次の7つのグループを作った。

- ・観光旅行、・リゾート、・スポーツ、・カー・ピクニック、・近郊レクリエーション
- ・都市レクリエーション、・住居地域レクリエーション

表-1は、レクリエーショングループと資源の対応を示すものである。

4. レクリエーションの参加回数と、経験率の関係

(1). 作業. レクリエーション参加回数と経験率の向には、一定の関係があるので、その関係を定めなければならない。その作業は、図-2によって、なされた。

(2). 結果と考察. この作業結果は、図-3に示す。この中で、係数 a 、 b のもつ意味は次のようなものと考えられる。

- ・ a ：レクリエーション参加の頻度
又は嗜好性を示す。 a が大きい程、同じ経験率でも参加が大きい。

- ・ b ： x の変化の y への影響を快める。習性を示す。

係数 a 、 b によって、表-2のようにレクリエーショングループをⅠⅡⅢⅣⅤにタイプ分けした。

表-1 レクリエーショングループと資源との対応

レクリエーショングループ	資源との対応				
	オープンスペース	都市地域	人工開発地域	自然開発地域	自然保護地域
観光旅行	●	○	○		
リゾート		○	●	○	
スポーツ			○	○	●
カー・ピクニック			○	●	○
近郊レクリエーション		○	●		
都市レクリエーション		●	○		
住居地域レクリエーション		●			

図-2 レクリエーション参加回数と経験率

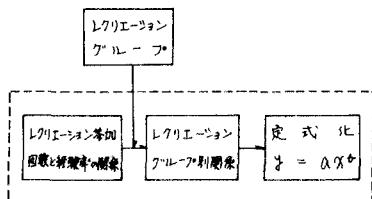
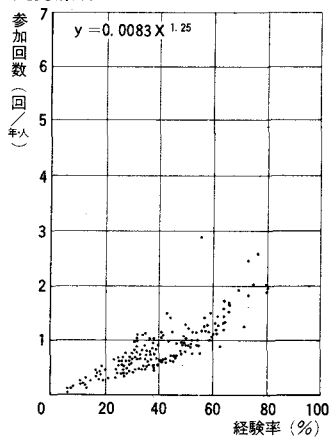


表-2 レクリエーショングループのタイプ分け

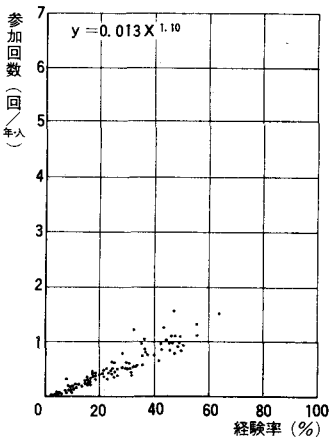
タイプ	係数	a	b	レクリエーショングループ
Ⅰ	大	0.018～0.022	中 1.18～1.31	都市レクリエーション
Ⅱ	大	0.018～0.022	小 1.03～1.18	カー・ピクニック 近郊レクリエーション
Ⅲ	中	0.008～0.014	中 1.18～1.31	観光旅行・スポーツ
Ⅳ	中	0.008～0.014	小 1.03～1.18	リゾート
Ⅴ	小	0.003～0.005	大 1.40～1.66	住居地域・レクリエーション 自然保護地域・レクリエーション

図-3 レクリエーションの参加回数と経験率

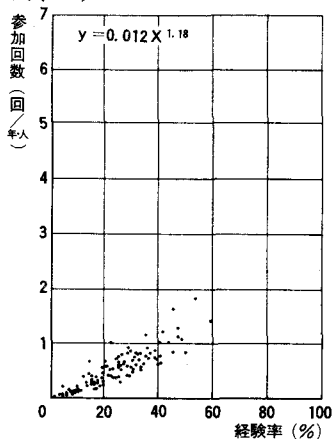
観光旅行



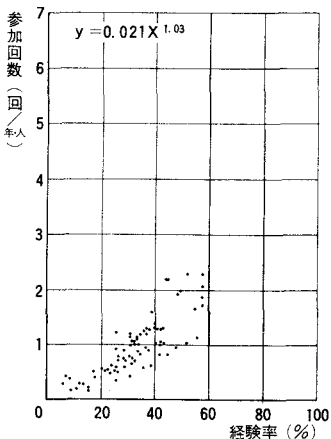
リゾート



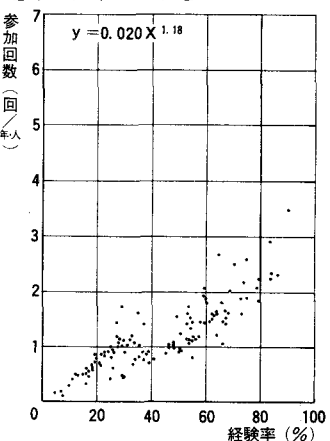
スポーツ



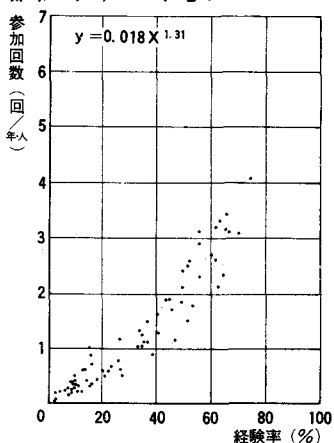
カー・ピクニック



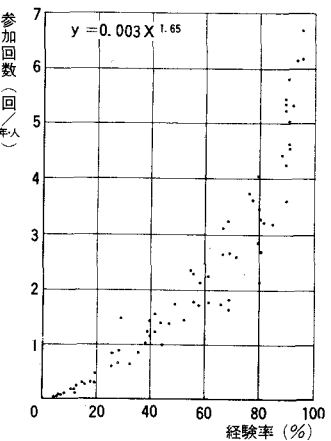
近郊レクリエーション



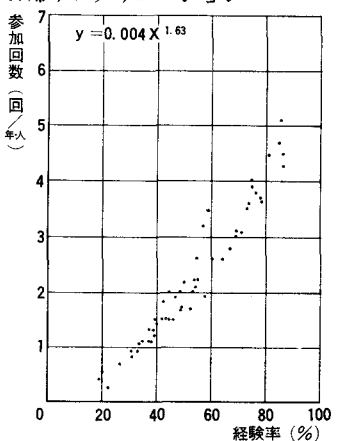
都市レクリエーション



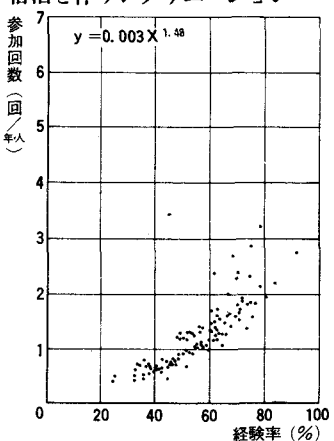
住居地域レクリエーション



日帰りレクリエーション



宿泊を伴うレクリエーション



(3). 信頼性. 定式化した各々のレクリエーショングループに対しては、いずれも相関性は高く、相関係数 0.80 以上であった。

5. 結論と今後の問題

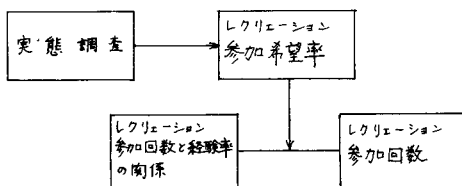
以上レクリエーション発生需要予測の方法の中で、レクリエーション参加と経験率との関係について考察をおこなった。結論的にいえることは、

- (1). 分類されたレクリエーションに特徴が認められること。
- (2). 将来のレクリエーション経験率がわかれば、レクリエーション需要予測に、この特徴を利用できること。その例として、レクリエーション参加希望率をもって、将来の経験率と仮定する方法がある。(図-4)

今後の問題としては、

- (1). 将来の経験率を求めるために、経験率と社会経済的因子の関係を明らかにすること。
- (2). 戸外余暇の総量を戸外レクリエーション需要のコントロール・トータルとするために、戸外余暇の利用についての研究を深めること。

図-4 参加希望率を使った場合の需要予測



この報告の作成にあたっては、東工大、鈴木忠義助教授にいろいろお世話いただいた。

6. 資料と参考・引用文献

- | | |
|--|--------------|
| 1). 京葉臨海地域レクリエーション実態調査 | 昭和39年 東大 鈴木研 |
| 2). 国民の旅行に関する世論調査 | 昭和39年 総理府 |
| 3). 消費者意向予測調査 | 昭和35年 |
| | 昭和36年 経済企画庁 |
| | 昭和37年上 |
| 4). 大都市圏のレクリエーション需要に関する世論調査 | 昭和41年 総理府 |
| 5). 観光の実態と志向 | 昭和39年 日本観光協会 |
| | 昭和41年 |
| 6). A User-Resource Recreation Method.: National Advisory Council on Regional Recreation Planning. | |